

2023年3月期第2四半期
決算説明会資料

2022.11.25

日本電子株式会社

世界の科学技術を支えるニッチトップ企業へ

▶ YOKOGUSHI ◀

経営理念

日本電子は「創造と開発」を基本とし常に世界最高の技術に挑戦し製品を通じて科学の進歩と社会の発展に貢献します

▶ YOKOGUSHI ◀

ビジョン

「70年目の転進」

創業以来培ってきた独自の技術と人脈を基に事業拡大を加速し更なる高収益化を実現します

中期経営計画

「Evolving Growth Plan」

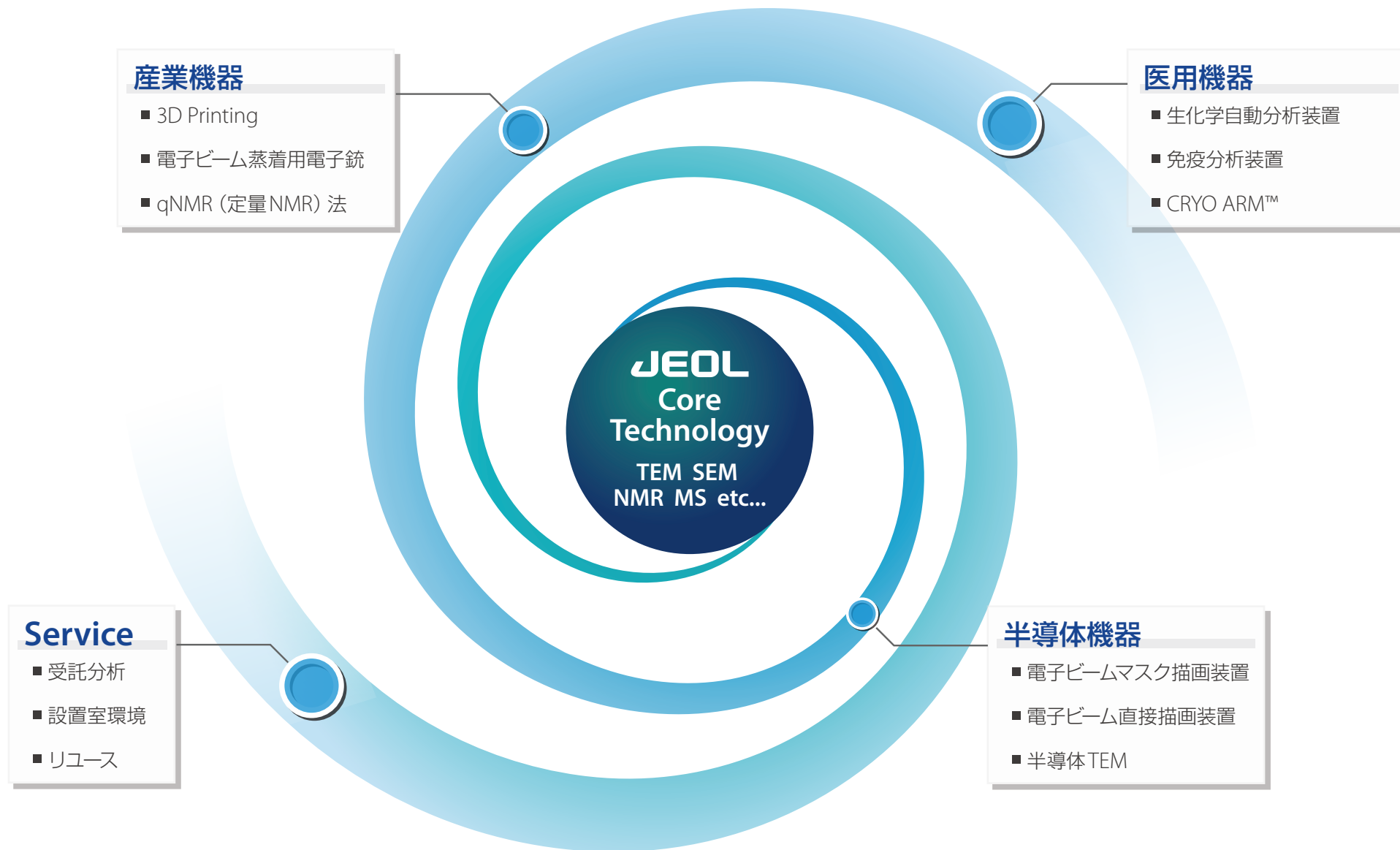
研究開発力、ものづくり力、サービス力のUPにより顧客満足度の向上を図ります

▶ YOKOGUSHI ◀

共創によるイノベーションを推進

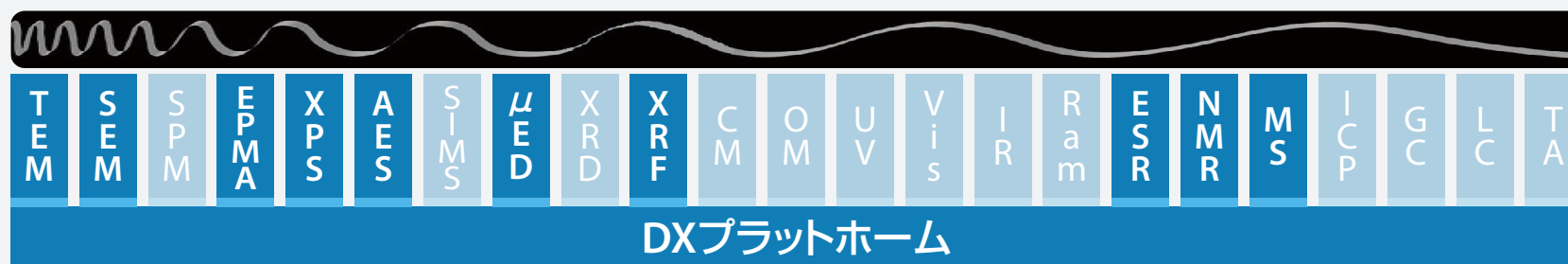
成長ビジョン「70年目の転進」の考え方は不変

- 事業規模の拡大と高収益化を実現する



- 高収益化に向け、更に強化、発展させる

▶YOKOGUSHI◀



Solutions



INDEX

1. 2023年3月期第2四半期実績および通期予想

2. 各事業の状況

2-1. 理科学・計測機器事業

2-2. 産業機器事業

2-3. 医用機器事業

サマリー

70年目の転進

創業以来培ってきた独自の技術と人脈を基に事業拡大を加速し
更なる高収益化を目指す

2022年度上期実績

売上、営業利益、経常利益は過去最高を更新
また、受注・受注残も過去最高

半導体市況軟化

最先端半導体への投資の強さは継続も、足元の半導体需要軟化を
受けて一部の顧客の設備投資計画が修正されている

2022年度通期見通し

売上高1,545億円、営業利益220億円、経常利益230億円、
当期純利益170億円

SI事業高収益化に向けて

成長マーケット（半導体、創薬、電池等）に向け、YOKOGUSHI戦略を
ベースに高い競争力を持つソリューションを提供する
営業とサービス提供を一体的に運用し、顧客への付加価値を高める

1. 2023年3月期第2四半期実績および通期予想

2022年度第2四半期累計期間決算実績 (P/L)

- 上期の過去最高値を更新

連結数値 (P/L)

(単位：億円)

	21年度2Q 実績①	22年度2Q 実績②	前年比 ②-①
1 売上高	534	647	114
2 売上原価	305	356	50
3 (原価率)	(57.2%)	(54.9%)	(△2.2%)
4 売上総利益	228	292	64
5 販管費	150	178	27
6 研究開発費	41	45	4
7 販売費及び一般管理費合計	192	223	31
8 営業利益	37	69	32
9 営業外収益	12	21	8
10 営業外費用	2	1	△0
11 経常利益	47	88	41
12 特別利益	0	10	10
13 特別損失	0	2	2
14 税前当期純利益	48	96	49
15 法人税等	11	24	13
16 当期純利益	37	72	36
為替レート(1\$=)	¥110	¥133	
為替レート(1€=)	¥131	¥139	

営業利益増減要因分析 (対前年比)

(単位：億円)

(A) プラス要因	67
1. 為替差 (円安)	39
2. 数量増	28
(B) マイナス要因	△35
1. 実質販売管理費増	△18
2. 原価悪化等	△13
3. 研究開発費増	△4
(A)+(B)	32



事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移（第2四半期累計期間）

（単位：億円）

		20年度 2Q実績	21年度 2Q実績	22年度 2Q実績
全社	売上高	494	534	647
	営業利益	25	37	69
	経常利益	29	47	88
	四半期純利益	19	37	72
理科学・計測機器事業	売上高	301	295	358
	営業利益	△3	△7	△1
産業機器事業	売上高	120	145	205
	営業利益	41	58	93
医用機器事業	売上高	73	94	85
	営業利益	7	8	3
全社	費用	20	23	26
為替レート(1\$=)		¥ 107	¥ 110	¥ 133
為替レート(1€=)		¥ 121	¥ 131	¥ 139

2022年度予想 (P/L)

■ 売上高1,545億円 / 営業利益220億円 / 経常利益230億円 / 当期純利益170億円

連結数値 (P/L)

(単位: 億円)

	21年度 通期実績 ①	22年度 通期予想 (22年5月13日時点)	22年度 通期予想 ② (22年11月11日時点)	前年比 ②—①	Evolving Growth Plan (最終年度:2024年度目標)
1 売上高	1,384	1,525	1,545	161	1,700
2 売上原価	830	877	853	23	
3 (原価率)	(60.0%)	(57.5%)	(55.2%)	(△4.8%)	
4 売上総利益	554	648	692	138	
5 販管費	327	345	360	33	
6 研究開発費	85	108	112	27	
7 販売費及び一般管理費合計	412	453	472	60	
8 営業利益	141	195	220	78	240
9 営業外収益	24	5	26	2	
10 営業外費用	3	12	16	13	
11 経常利益	163	188	230	67	240
12 特別利益	4	0	10	6	
13 特別損失	1	2	13	12	
14 税前当期純利益	167	186	227	61	
15 法人税等	44	49	57	13	
16 当期純利益	123	137	170	47	
為替レート(1\$=)	¥ 113	¥ 115	¥ 135		¥ 115
為替レート(1€=)	¥ 131	¥ 130	¥ 138		¥ 130

営業利益増減要因分析 (対前年比)

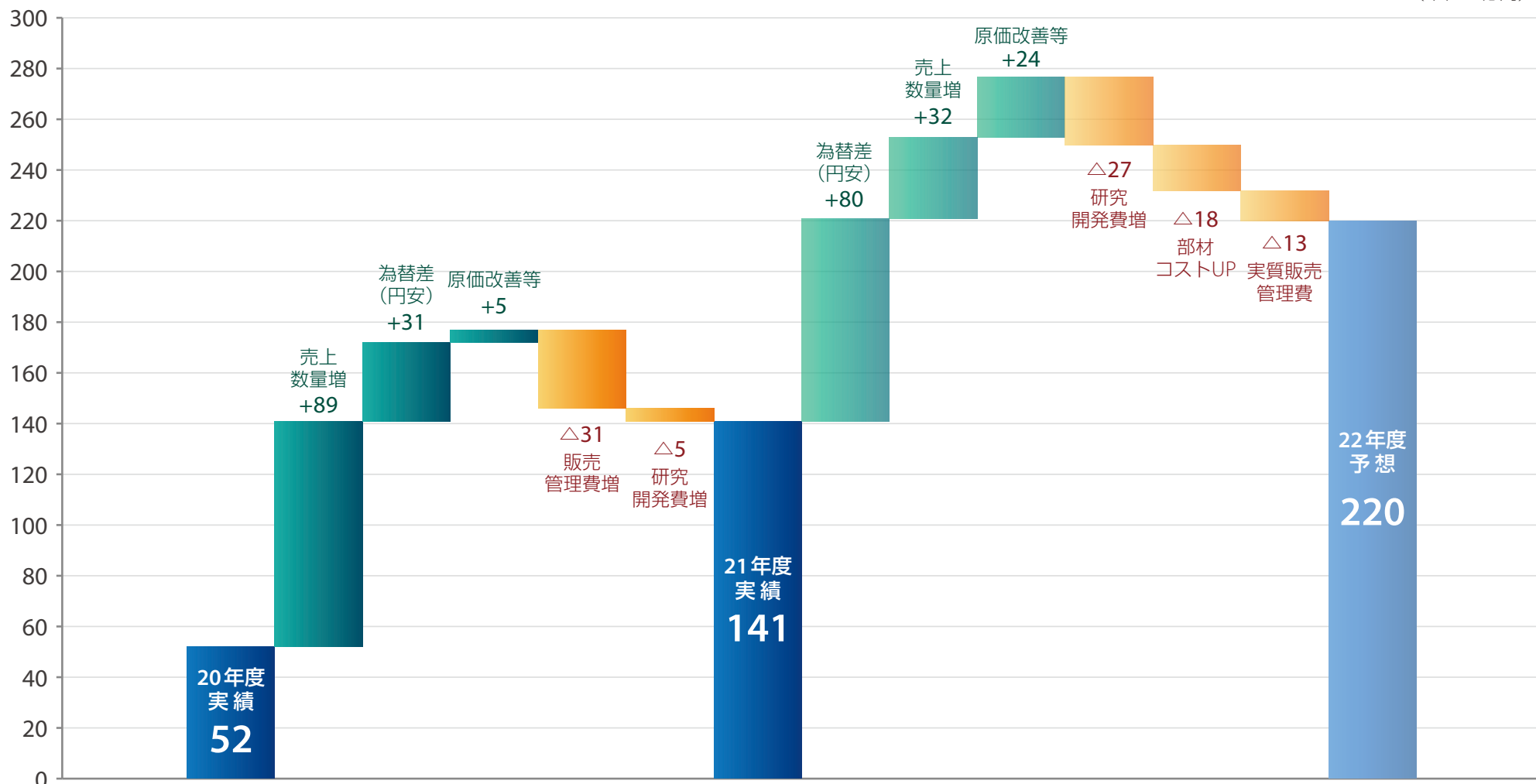
(単位: 億円)

(A)プラス要因	136
1. 為替差 (円安)	80
2. 売上数量増	32
3. 原価改善等	24
(B)マイナス要因	△58
1. 研究開発費増	△27
2. 部材コストUP	△18
3. 実質販売管理費増	△13
(A)+(B)	78

利益の増減要因

営業利益増減分析

(単位：億円)



事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移（通期）

（単位：億円）

		20年度 通期実績	21年度 通期実績	22年度 通期予想 (22年5月13日時点)	22年度 通期予想 (22年11月11日時点)
全社	売上高	1,104	1,384	1,525	1,545
	営業利益	52	141	195	220
	経常利益	66	163	188	230
	当期純利益	37	123	137	170
理科学・計測機器事業	売上高	706	851	902	877
	営業利益	12	48	56	43
産業機器事業	売上高	240	340	442	485
	営業利益	73	131	180	221
医用機器事業	売上高	159	193	181	183
	営業利益	9	11	12	10
全社	費用	42	49	53	54
為替レート(1\$=)		¥ 106	¥ 113	¥ 115	¥ 135
為替レート(1€=)		¥ 124	¥ 131	¥ 130	¥ 138

主要勘定の推移

第2四半期

(単位：億円)

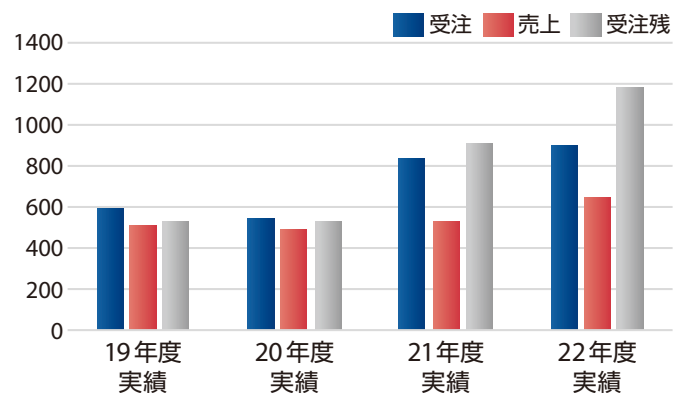
(連結)	20年度 2Q実績	21年度 2Q実績	22年度 2Q実績
1 在庫	589	652	706
2 有利子負債	317	214	140
3 純資産 (自己資本比率)	469(33.0%)	774(46.0%)	927(49.0%)
4 配当金 (円)	12円	14円	30円
5 海外売上比率	69.0%	68.0%	75.4%
6 受注	543	838	899
7 受注残	536	913	1,187

通期

(単位：億円)

(連結)	20年度 通期実績	21年度 通期実績	22年度 通期予想
1 在庫	573	591	700
2 有利子負債	327	166	115
3 総資産	1,464	1,896	1,911
4 純資産 (自己資本比率)	510(34.8%)	859(45.3%)	1,054(55.2%)
5 配当金 (円)	24円	50円	60円
6 設備投資	76	69	45
7 減価償却費	36	41	46
8 受注	1,226	1,712	—
9 受注残	608	936	—
10 海外売上比率	63.5%	63.4%	70.0%

第2四半期連結受注 / 売上 / 受注残推移



事業環境

- 引き続き受注は好調、部材逼迫の影響を最小化すべく対応中

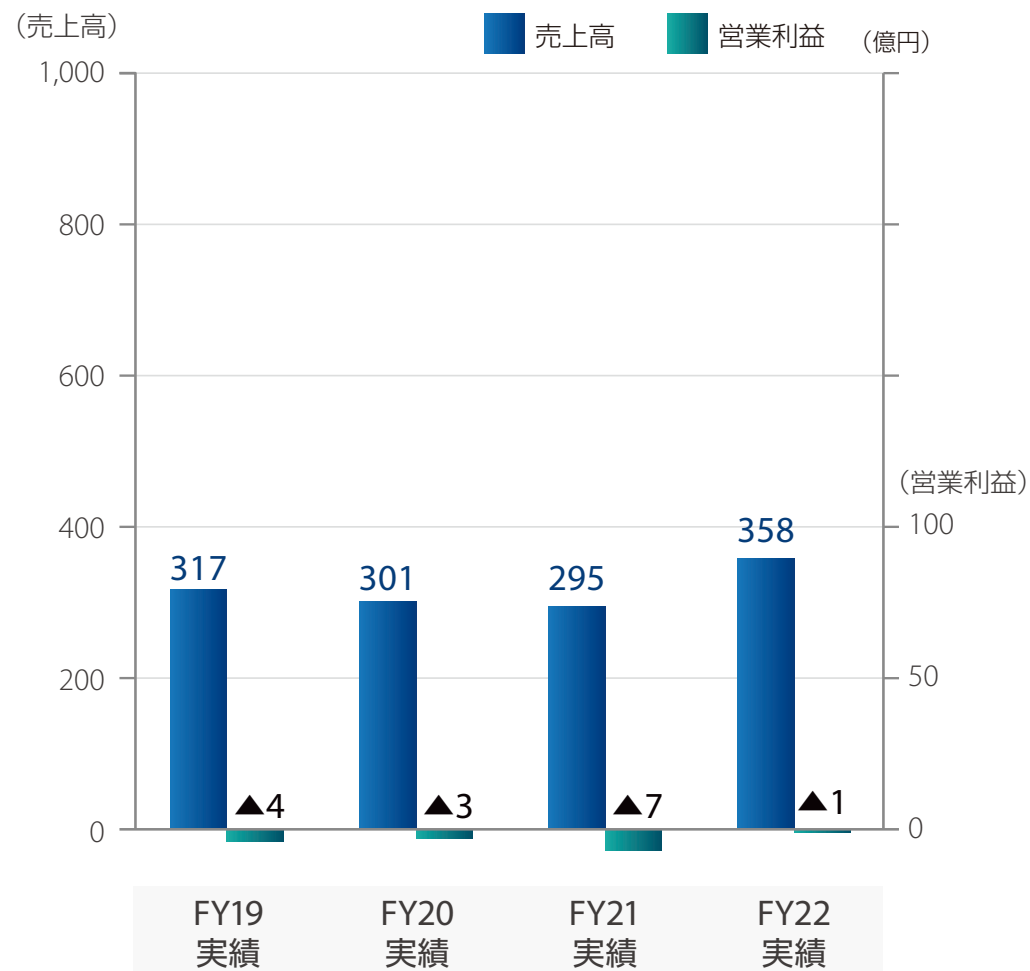
		概況	
理科学・計測機器事業	大学・官庁	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各国政府の活発な科学技術投資 ■ FY22も補正予算による引き合いあり（国内） ■ 欧米での引き合いが復調継続 ■ 中国市場は引き続き活況。但し、米国の中国輸出規制による影響懸念あり
	民需（半導体）	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ 極東・中国地域を中心にTEMの引き合いが堅調 ■ 微細化・複雑化に伴い電子顕微鏡（TEM, SEM）のニーズが拡大傾向
	民需（他産業）	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体的に設備投資が活発 ■ 次世代電池向けの研究開発投資が増加傾向 ■ ウクライナ侵攻の影響は現在のところ発現していない
産業機器事業	描画装置市場	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ 半導体市況の軟化により投資動向については顧客や特定のファブ、プロセスノードごとに濃淡が見られる
	電子銃市場	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ 偏向銃の引き合い大幅増加
医用機器事業	国内市場	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生化学分析装置の需要が復調傾向
	海外市場	△	<ul style="list-style-type: none"> ■ シーメンス向けの受注・売上が復活 ■ 新型コロナによるロックダウンの影響により中国が低調

2-1. 各事業の状況 理科学・計測機器事業

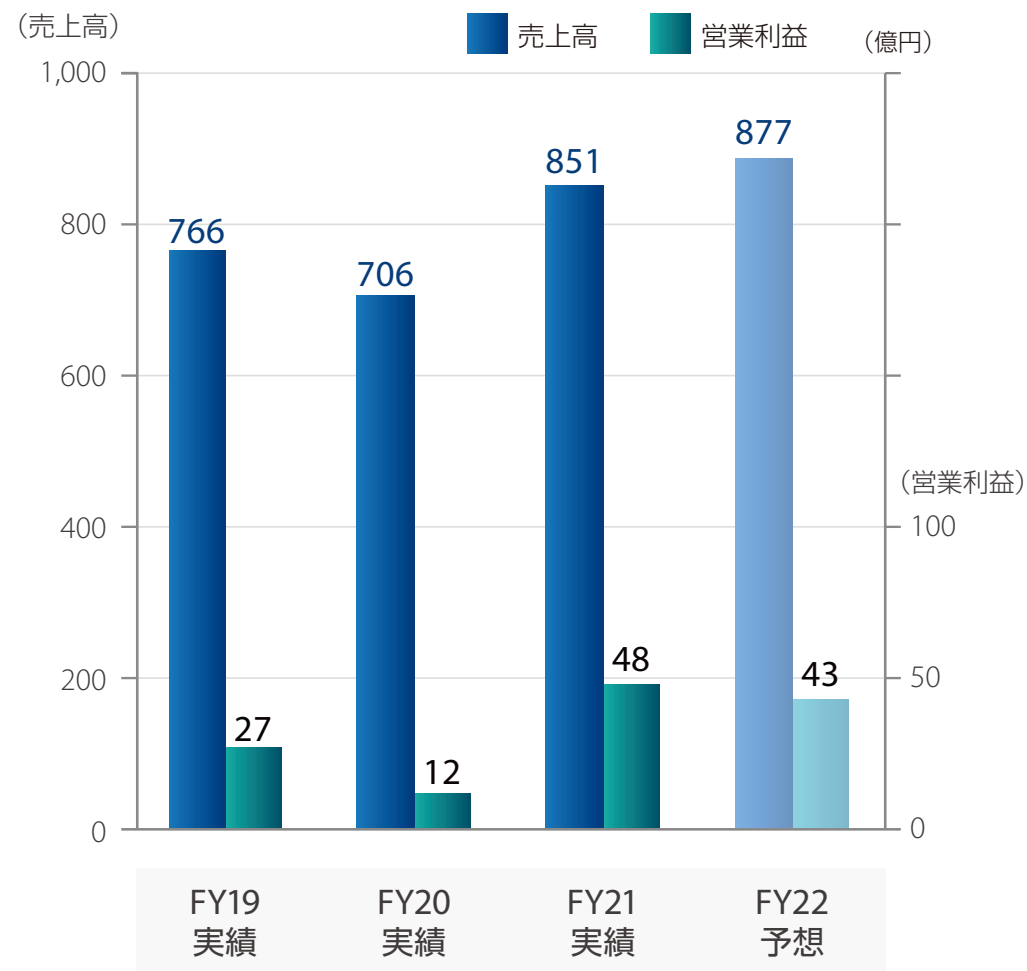


理科学・計測機器事業 事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移

第2四半期業績推移



通期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 109	¥ 107	¥ 110	¥ 133
為替レート(1€=)	¥ 121	¥ 121	¥ 131	¥ 139

為替レート(1\$=)	¥ 109	¥ 106	¥ 113	¥ 135
為替レート(1€=)	¥ 120	¥ 124	¥ 131	¥ 138

株式会社JEOL RESONANCEを吸収合併

- 10月1日に、NMR（核磁気共鳴装置）およびESR（電子スピン共鳴装置）の開発・製造を行っている株式会社JEOL RESONANCEを吸収合併した
- 世界的に最先端の研究開発への投資が拡大する中、最先端のNMRや電子顕微鏡を含む多くのハイエンドの計測・分析装置をグループ内に持つ企業として、今回の合併により装置間の連携をさらに推進しユーザーにより高い付加価値を提供することを目指す
- また、管理部門などの共通機能の統合によりオペレーションを効率化することで、理科学・計測機器事業の収益力の強化を目指す



NMR（核磁気共鳴装置）



ESR（電子スピン共鳴装置）

世界一コンパクトな超1GHzのNMR装置の開発に成功

重量は従来機の約10分の1、液体ヘリウムの継ぎ足し不要

- 当社が参画する機構未来社会創造事業の共同研究（理化学研究所、ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社、東京工業大学、科学技術振興）にて、世界一軽量・コンパクトな超1GHz核磁気共鳴（NMR）装置の開発に成功した（従来機では年間数百リットル以上を消費していた希少資源である液体ヘリウムの蒸発を、ゼロに抑えることに成功）

世界初の超1GHz NMR（2015年当時）



超1GHz コンパクトNMR

- 重量約10分の1
- 液体ヘリウム蒸発なし



今後、現在の世界最高磁場である1.2GHz（28.2テスラ）を超える1.3GHz（30.5テスラ）の世界最高磁場NMR装置の開発を目指す

International CryoARM User Meetingを開催

- 欧州の研究機関や大手製薬企業のユーザーを中心に、米国、オーストラリア、アジア地域のユーザーも参加した

INTERNATIONAL CRYO ARM USER MEETING
2022, Sept 7th/8th, Regensburg (GERMANY)

JEOL UR
Universität Regensburg

BIOCHEMISTRY STRUCTURAL BIOLOGY LIFE SCIENCES
WORKSHOP USER MEETING
SINGLE PARTICLE ANALYSIS AND TOMOGRAPHY
CRYO ELECTRON MICROSCOPY
VIROLOGY ATOMIC RESOLUTION
NETWORKING TRENDS RNA BIOLOGY TIPS & TRICKS
MOLECULAR BIOLOGY
MICROBIOLOGY MEMBRANE PROTEINS
COMPREHENSIVE INSIGHTS
CELL BIOLOGY
AUTOMATION AND HIGH-THROUGHPUT
3-D RECONSTRUCTIONS IMAGING HOW TO

Program & Info

日程：2022年9月7日～9月8日

場所：University of Regensburg
(ドイツ Universität Regensburg)

参加者：約80名 (リモート参加を含む)

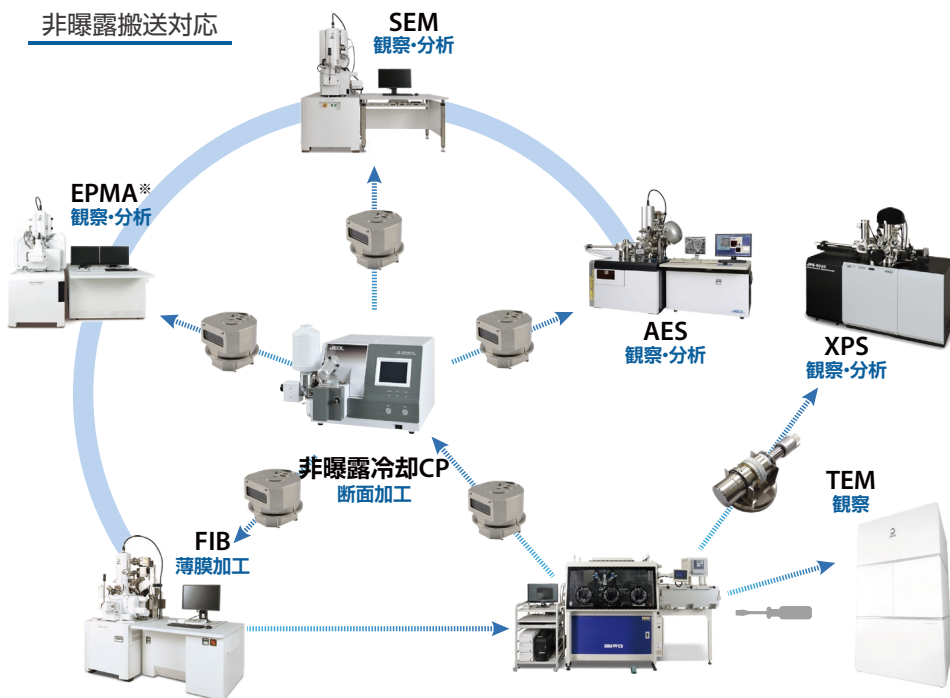


次世代電池向け解析ソリューションの深化

- 次世代電池の研究開発における観察・分析装置の導入が進み受注が好調
- 製造工程管理・検査用途で、走査電子顕微鏡 (SEM) とエネルギー分散型X線分析装置 (EDS) を組み合わせた粒子解析システムの引き合いも増加

次世代電池向け YOKOGUSHI 解析ソリューション

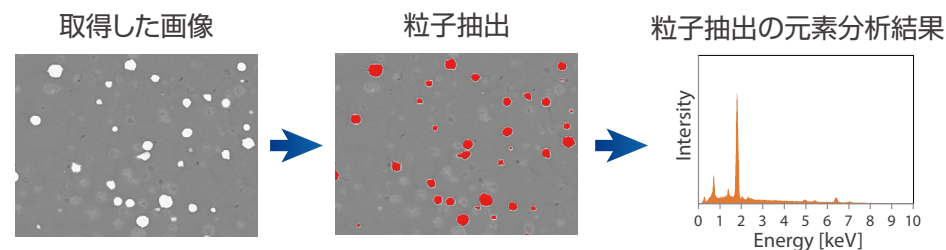
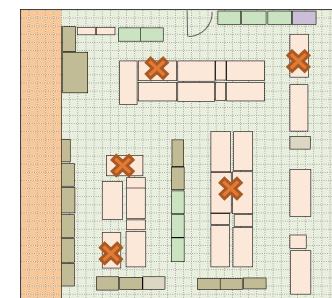
- 電池材料は材料変質を抑えるため大気非曝露下での取り扱いが求められるが、当社の観察・分析装置や試料加工装置間の非曝露搬送が可能



※EPMAはElectron Probe Micro Analyzerの略です

車載電池製造ライン向け環境検査システム

- 電池製造では製品安全性の確保等のため、組み立て環境において工程内発塵物検査(異物の管理と検査)が求められており、全自動異物測定システムのニーズが高まりつつある

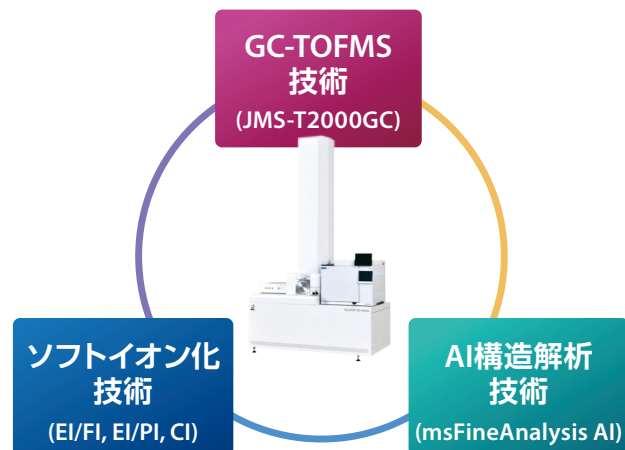


未知物質定性解析ソリューション: msFineAnalysis AI をリリース

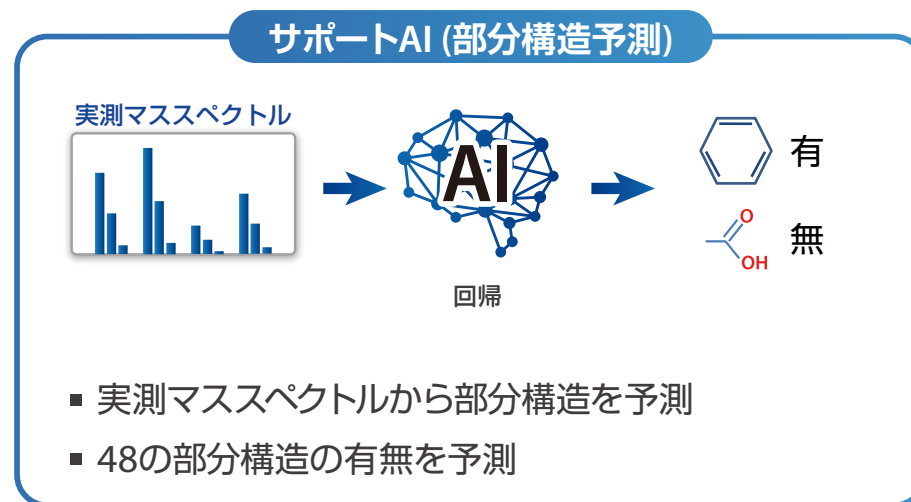
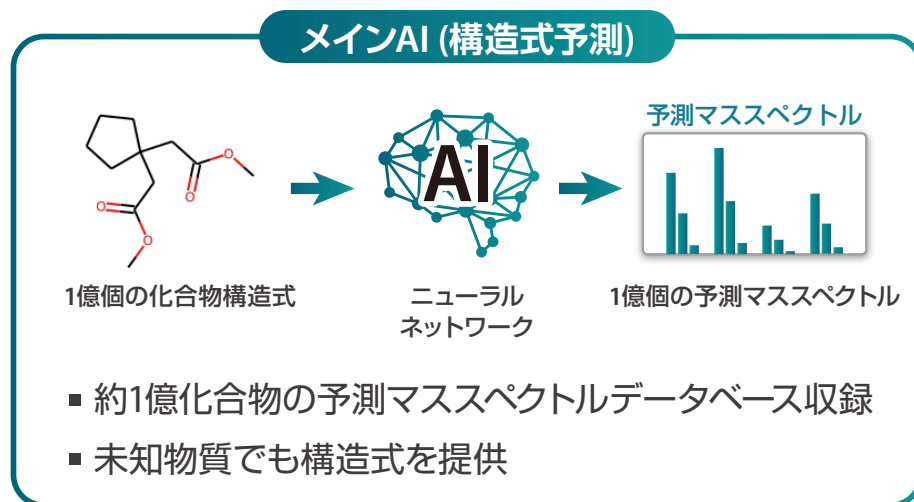
- これまでは困難であった未知物質の定性分析が、「msFineAnalysis AI」を用いることで可能に

msFineAnalysis AI ソリューション

- GC-TOFMSを用いた精密質量解析=観測イオンの組成推定
- ソフトイオン化法を用いた分子式情報の取得
- AI技術を用いて **1億化合物のデータベース** を構築

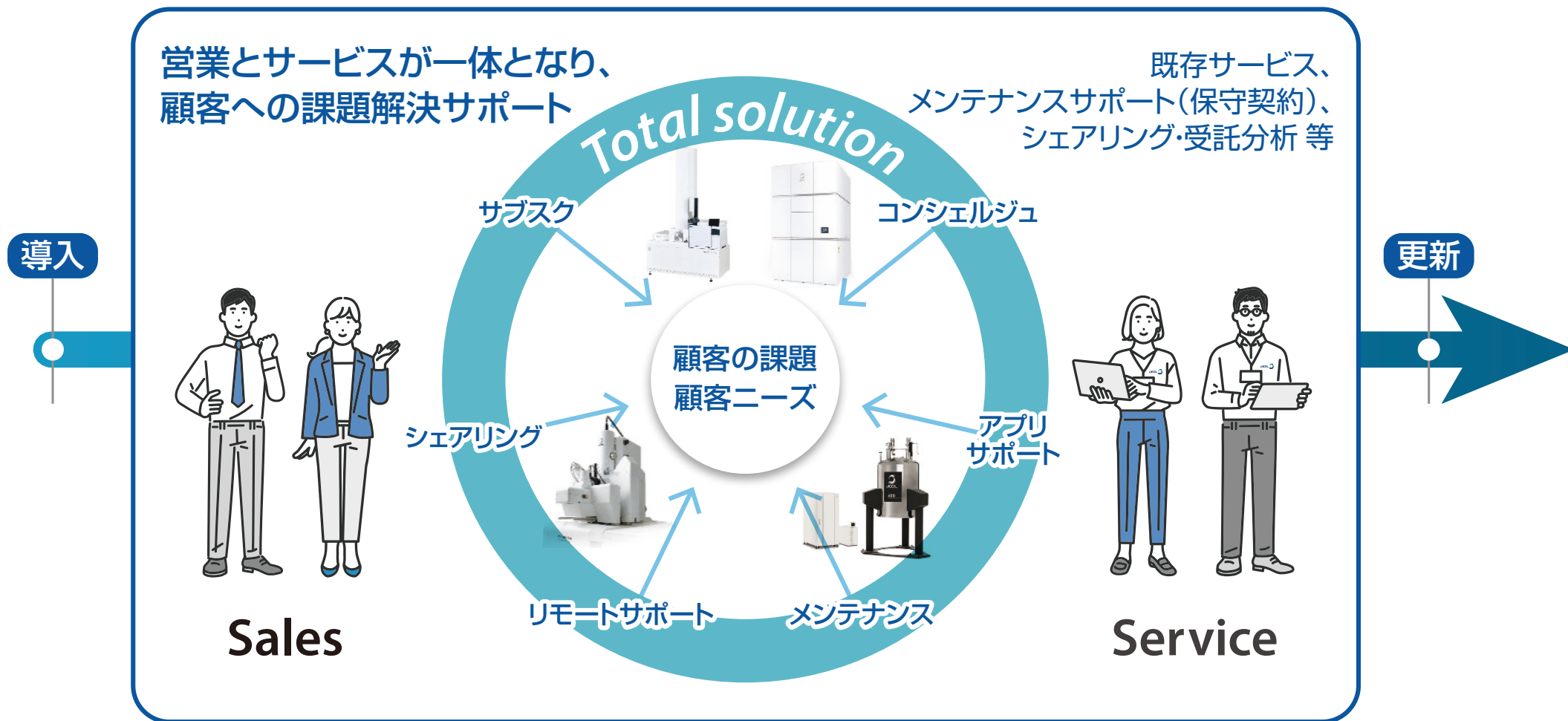


msFineAnalysis AIでは、特性の異なる深層学習と機械学習を相補的に組み合わせて使用



製品とYOKOGUSHI戦略を活かしたサービスを展開

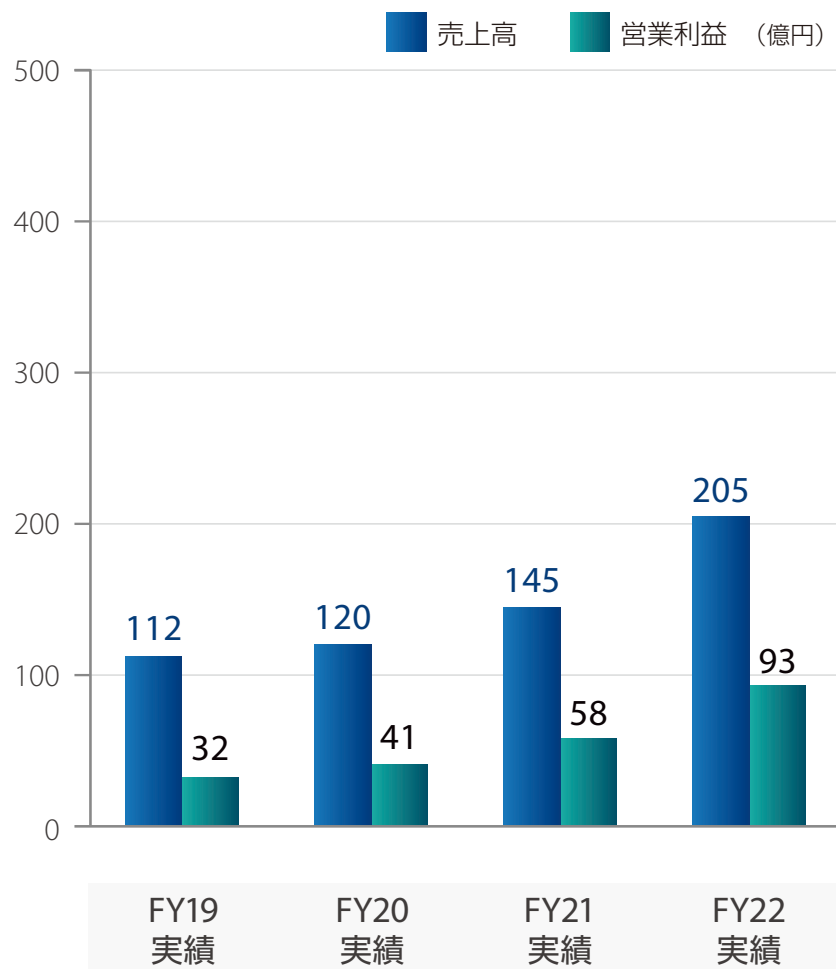
- 装置のお引渡しまでの期間を有効活用いただき、技術の習得をしていただけるブリッジングサービスをはじめ、装置を最大限に活用いただくための様々なサービス&サポートプランをご用意



2-2. 産業機器事業

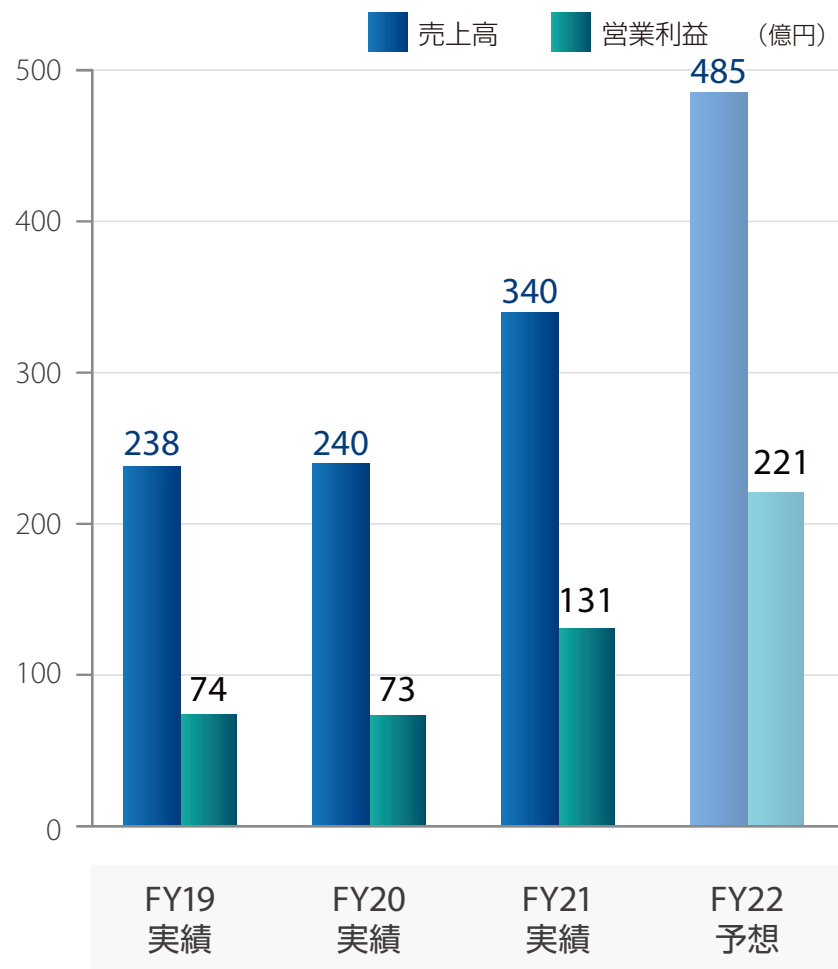
産業機器事業 事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移

第2四半期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 109	¥ 107	¥ 110	¥ 133
為替レート(1€=)	¥ 121	¥ 121	¥ 131	¥ 139

通期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 109	¥ 106	¥ 113	¥ 135
為替レート(1€=)	¥ 120	¥ 124	¥ 131	¥ 138

次世代型産業用電子ビーム金属3Dプリンター

- 海外市場をターゲットに米国と欧州の主要なAMに関する展示会に出展

米国

RAPID + TCT 2022

日程：2022年5月17日～5月19日

場所：米国 デトロイト



欧州

FORMNEXT 2022

日程：2022年11月15日～11月18日

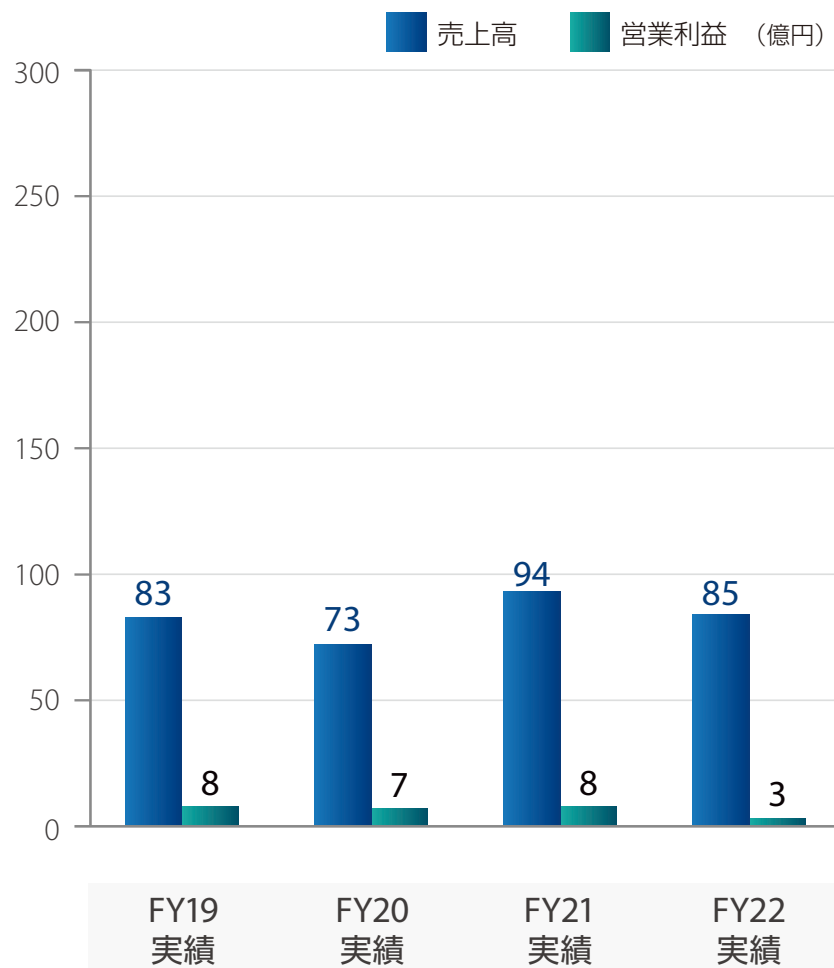
場所：ドイツ フランクフルト

2-3. 医用機器事業



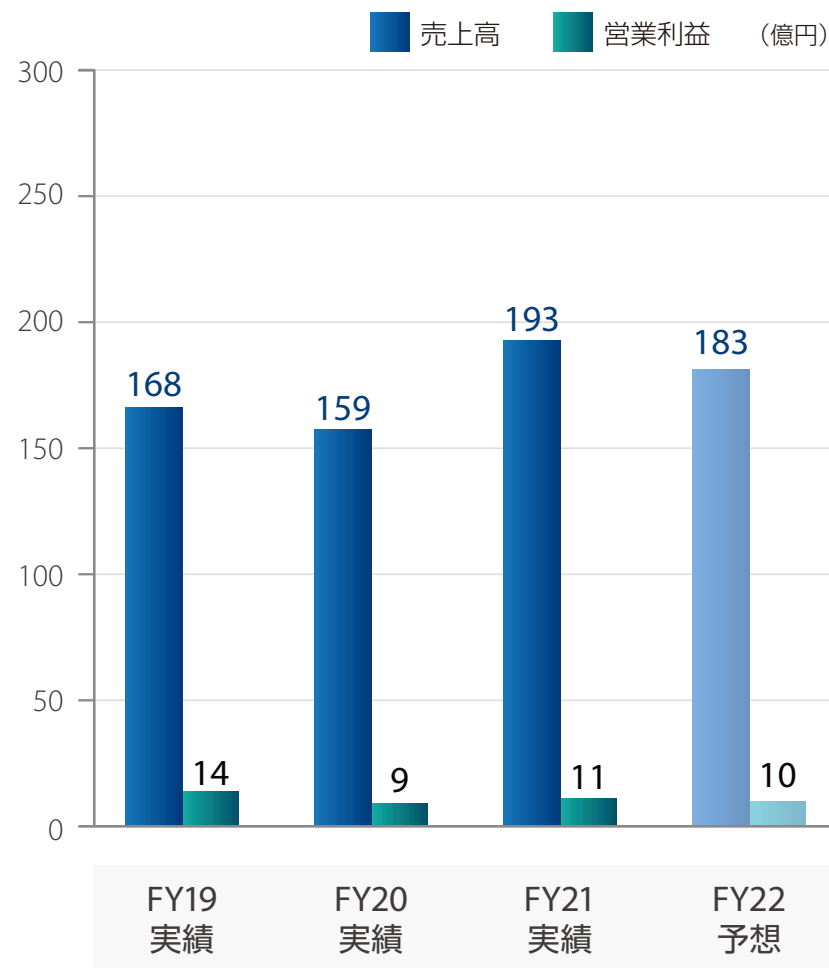
医用機器事業 事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移

第2四半期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 109	¥ 107	¥ 110	¥ 133
為替レート(1€=)	¥ 121	¥ 121	¥ 131	¥ 139

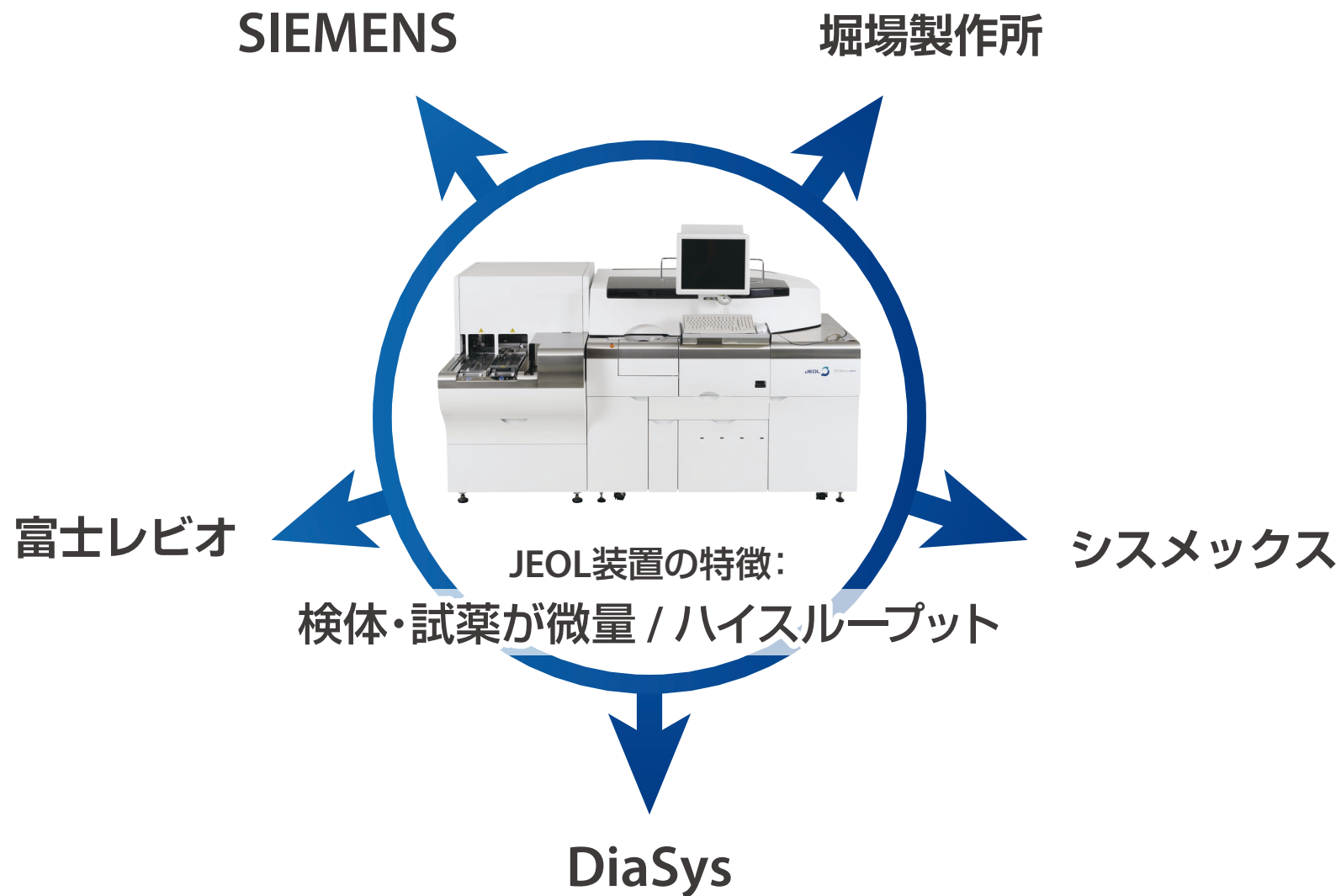
通期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 109	¥ 106	¥ 113	¥ 135
為替レート(1€=)	¥ 120	¥ 124	¥ 131	¥ 138

重点施策：海外市場の開拓（医用機器事業）

- 新興国を中心とした世界市場へ展開を継続



資料取扱上のご注意

本プレゼンテーション資料及び弊社代表者が口頭にて提供する情報には、現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく記述が含まれています。

今後、経済情勢をはじめ半導体市況や研究開発投資など、弊社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が異なったものとなることが否定できないことを、ご承知置き願います。